

委託事業実施内容報告書
令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(C)】
実施内容報告書

団体名：特定非営利活動法人国際活動市民中心

1. 事業の概要

事業名称	地域日本語教室での対話的な日本語活動につなげるための基礎日本語教育実践研究事業
日本語教育活動に関する特定のニーズの実情や課題	<p>1. 日本語学習支援者研修の出口である日本語教室の学習活動に関する問題</p> <p>CINGAは、2018-2019年度に「日本語学習支援者に対する研修カリキュラム開発事業」を行った。実施した研修においては、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」に示された「日本語学習支援者に求められる資質・能力」の向上を表す結果が顕著に認められた。 報告書：https://www.cinga.or.jp/826/</p> <p>このカリキュラムに基づく研修の修了者による日本語教室等の実践は、他方に日本語教師が担う「基礎日本語教育」の場があることを前提としていた。ほとんど(または全く)日本語を解さない外国人に日本語学習支援者が対応しようとするれば、日本語教育の専門知識や経験が求められることとなり、日本語学習支援者研修のカリキュラムでは不十分という声があがる状況であった。外国人が市民とのコミュニケーションをとおして日本語習得を進めるためには、日本語教室等に参加する前の段階において、車の両輪としての対を為す「保障としての基礎日本語教育の場」が求められていた。市民参加の地域日本語教室につなぐことを目的として設計された基礎日本語教育の方法論が課題であり、実践研究が急務となっていた。</p> <p>2. 本事業コーディネーターが関わった他機関での教材作成と日本語教育実践からみる「特定のニーズ」</p> <p>地域には、国際交流協会や地域日本語教室等、市民参加の日本語活動の場が多く存在する。これらは多文化共生の場として、国籍や文化を超えて参加者同士が相互理解を目的としたコミュニケーションをとる場となっている。その入り口で外国人には一定の能力が求められる。それは、基礎的な(A1～A2)日本語知識と運用能力のほか、①自身の思いや経験や考えを一問一答ではなくまとまった形で自己表現する姿勢と能力、②教えてもらうのを待つのではなく、わからないことは自ら問うたり調べたりする自律学習能力、である。</p> <p>本事業コーディネーターが教材開発と日本語教育企画に携わった千葉市国際交流協会における実践では、ほとんどまたは全く日本語がわからない状態の学習者が60時間程度のクラス学習を経て上記の①②の力を獲得した。しかし、教師の「実感」をデータで示すには至っておらず、実践研究が求められていた。</p> <p>また、同協会が文化庁委託事業で開発した教材「わたしを伝える日本語」を使った日本語教育実施のために、日本語教師と日本語学習支援者を対象とした全6回のオンライン研修には全国各地域から参加があり、「対話型活動で行き詰まっている」「文型積み上げ方式を変えたいと思っている」「何から始めればよいかわからない」「わたにほ」の教材やその考え方をぜひ取り入れたい」といった声があった。このことから、地域の教室につなぐための基礎日本語教育の内容検討は、各地の実践者の切実な課題、「特定のニーズ」であることが明白であった。</p>
事業の目的	<p>本事業は、日本語がほとんどまたは全くわからない「生活者としての外国人」を地域日本語教室等での対話的な日本語活動につなぐために、その前段階で日本語教師が担うべき公的な基礎日本語教育の方法と内容について、実践研究をとおして提案することを目的とする。それにより、各自治体の多文化共生社会の実現を目的とする日本語教育体制整備に資することをめざす。</p> <p>【本事業の先進性】 コーディネーターの萬浪と西山は、中間支援組織CINGAの事業として、また個人で受けた仕事として、合わせて以下の「生活者」に対する日本語教育関連事業に関わってきた。 日本語学習支援者研修カリキュラム開発、同研修プログラム普及、地域日本語教育スタートアッププログラム、難民に対する日本語教育、つながるひろがるにほんごでのくらし教材開発、千葉市国際交流協会地域日本語教育実践プログラムA、B、多数の日本語ボランティア講座企画、日本語教育の総合的な体制づくり(千葉県、千葉市、三重県)、東京都港区日本語教育基盤づくり。 複数の事業に関わって常に課題と感じたのは、「生活者」を対象とする日本語教育の多くがいまだにボランティア依存であり、それで善しとする体制と認識である。CINGAは、市民参加の日本語教室の意義は大いに認めながらも、一方でそこにつなぐまでの入門者への公的な基礎日本語教育の設置を必須と考える。市民参加の日本語教室における「標準的なカリキュラム案」に則った学習プログラムの実施は、外国人が基礎日本語教育を終えた段階で日本語教室に入るならば、有効性が増す。基礎日本語教育は専門家としての日本語教師が担うべきとされているが、そこで何をどのように行うのかという方法論の確立が急務である。本事業は、多くの文化庁事業等に関わってきたさまざまな現場や関係者の「声」を知るCINGAだからこそ、知見と思いをもって実施できる先進性をもつものである。また、他の事業においてその事業の中では解決できなかった点をCINGAで取り上げて扱うことにより、複数の事業に貢献できる。</p>

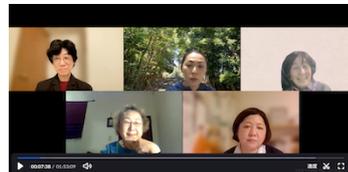
事業内容の概要 (課題をどのように解決するのか、どのような点が先進的な取組になるのか分かるように記載)	1. 運営委員会の設置 地域日本語教育に通じた有識な実践者を運営委員とし、3回の運営委員会をもって事業を適切に推進した。
	2. 日本語教育の実施 【対象】 日本で日本語教育を必要とする外国人には、「来日直後で日本語を解さない層」と「日本に定住して口頭能力はあるものの読み書きのできない層」の2層がある。「日本語教育の推進に関する施策を統合的かつ効果的に推進するための基本的な方針」(R.2)において、地域における日本語教育実施で外国人は「自立した言語使用者として日本社会で生活して行く上で必要となる日本語能力」が必要と示されている。これらの基礎日本語教育の対象と考えられる2層のうち、本事業1年目は前者を実践研究の対象として、A1～A2レベルの基礎日本語教育を2地域で実施した。
	【教材・アプローチ】 日本語教育には、CINGAが2020年度に作成した教材を使用した。本教材は、CCIAが文化庁委託事業(2019)で作成したマスターテキストアプローチの教材『わたしを伝える日本語』を参考にして、ユニット数を拡充したものである。基礎的な文法・句型に関する知識も学びながら自己表現能力と自律学習能力を身につけられるよう設計されている。CINGA日本語教育コーディネーターはCCIAの教材開発に携わり、萬浪はその教材を用いた対面およびオンラインの日本語学習プログラム策定・運用を担ってきた。その知見を活かして日本語教育を行った。
	【地域】 多角的な視点で実践研究を行うため、日本語教育はCINGAと茨城県ひたちなか市での2コース実施した。CINGAのコースでは、全国各地域での公的日本語教育の可能性を広げるオンライン形態で実践した。ひたちなかのコースでは、オンラインを基本としつつも地域密着型を模索するために対面を併用した。
	3. 実践研究会の実施 実践の結果を各地域の公的日本語教育実施に活かせるよう、分析と評価を行った。実践研究会は全3回実施した。評価指標については、第1回において講師に助言を得て定めた。CINGAおよび、ひたちなか市における授業記録と学習者データをもとに、課題共有と実践改善、指標に基づく分析、評価を行った。
	4. 事業報告会の実施 日本語教育実践の結果をオンラインにて発表した。各地の自治体や国際交流協会の日本語教育担当者、地域日本語教育の研究者、実践者など156名の参加があった。日本語教師が行う公的な基礎日本語教育の設計と方法について実践報告したとともに、多文化共生のための市民参加の地域日本語教室につなぐという視点をもった基礎日本語教育実施の重要性を啓発した。
事業の実施期間	令和3年5月27日～令和4年3月18日

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	内藤 真知子	国際日本語普及協会・元専務理事 難民事業本部・元日本語教育監督者
2	米勢 治子	東海日本語ネットワーク・副代表
3	式部 絢子	北海道大学・非常勤講師／研究員 北海道秩父別町・多文化交流コーディネーター
4	萬浪 絵理	国際活動市民中心・日本語教育コーディネーター
5	西山 陽子	国際活動市民中心・日本語教育コーディネーター



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和3年5月28日 (金) 19:00～21:00	2時間	オンライン	内藤 真知子 米勢 治子 式部 絢子 萬浪 絵理 西山 陽子	1. 事業説明 2. 学習者募集広報について 3. 実践研究の方法について 4. 事業評価について
2	令和3年10月25日 (月) 19:00～21:00	2時間	オンライン	内藤 真知子 米勢 治子 式部 絢子 萬浪 絵理 西山 陽子	1. 事業中間報告 各コース、実践研究会 2. 今後の計画について 3. 事業評価について
3	令和4年2月28日 (月) 19:00～21:00	2時間	オンライン	内藤 真知子 米勢 治子 式部 絢子 萬浪 絵理 西山 陽子	1. 事業最終報告、事業報告会 2. 事業評価について 3. 今後の計画について

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<p>CINGA基礎日本語教室 日本語初学者を対象として週2回、半年の基礎日本語コースをオンラインで実施</p> <p>実践研究会の実施 同一の教材を使用して基礎日本語教育を実施した2地域の教師による実践研究を行った。</p> <p>ひたちなか市国際交流協会基礎の日本語教室 日本語初学者を対象として週2回、半年の基礎日本語コースを対面またはオンラインで実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着のひたちなかコースにおいては、ひたちなか市および近隣地域の企業、日本語教室等に取組を周知し、本教室への参加を促進した。 ・ひたちなかでは主に保育助成に関してロータリークラブと連携を図った。 ・事業報告会をとおり、各地の自治体、国際交流協会、日本語教室等に成果報告し、今後のコース実施における連携の足がかりとした。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	<p>中核コーディネーター ・市民参加の日本語活動の場・基礎日本語教育の視点 ・日本語学習支援者研修カリキュラム開発の経験 ・人とつながるための教材開発の経験</p> <p>CINGA開発教材 (2020年度作成)</p> <p>↓</p> <p>1) 運営委員会 CINGAコーディネーター + 委員会メンバー (地域日本語教育に関わる日本語教育専門家) ・定住者への公的な初期日本語教育実施経験 ・対話型日本語学習支援の実施経験 ・多文化共生のまちづくり事業の実施経験</p> <p>↓</p> <p>2) 2団体での日本語教育の実施 (オンラインおよび対面) CINGA 茨城県ひたちなか市国際交流協会</p> <p>↓</p> <p>3) 実践研究会の実施 ・2)実施の2団体による実践についての共有・課題抽出と改善 ・実践結果の分析</p> <p>↓</p> <p>4) 事業報告シンポジウム ・日本語教育実践の結果をオンラインにて発信</p>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 各取組の報告

特定のニーズに応じた日本語教育の実施【活動の名称：日本語教育の実施】

取組の目標	自己表現のための基礎日本語能力、対話の姿勢、および、自律学習能力を養うこと。もって、地域市民と人間関係を構築しながらコミュニケーションをとおり日本語習得と文化理解を進められる日本語教室につなぐこと。自己表現能力は、学習者によるエッセイ、スピーチなどの成果物や、インタビューの結果により検証する。対話の姿勢は、行動観察により検証する。自律学習能力の獲得は、学習者アンケート、授業記録により検証する。																												
取組の内容	<p>1) 概要 右表のとおり。</p> <p>2) 教材 日本語教育には、CINGAが2020年度に作成した教材を使用した。この教材は、千葉市国際交流協会が文化庁委託事業(2019)で作成したマスターテキストアプローチの教材『わたしを伝える日本語』を参考にして、ユニット数を増やし、初級前半の文型を概ね網羅したものである。基礎的な文法・文型に関する知識も学びながら生活に身近なテーマでの自己表現能力と自律学習能力を身につけられるよう設計されている。</p> <p>3) マスターテキストアプローチおよびその教材を採用する理由 CINGA日本語教育コーディネーターの萬浪は千葉市国際交流協会の委嘱コーディネーターとして同協会の教材作成とその教材を用いた対面およびオンラインの日本語学習プログラム策定・運用を担ってきた。1年余の使用により、まとまった内容の発話(「日本語教育の参照枠」における言語活動のうち「発表」)ややりとりの能力のみならず、学習者同士または日本語学習支援者との対話、協働学習、自律学習方略の獲得等の成果を見ている。 本事業では、その知見を活かし、他地域への普及をめざして実践研究のための日本語教育を行った。コース終了後に地域の日本語教室等で市民(日本語学習支援者)との対話をとおり日本語習得を進めていくのに必要な力が獲得されているかを可視化することを目的として日本語教育を行った。</p>	<table border="1"> <tr> <td>コース名</td> <td>CINGAコース</td> <td>ひたちなかコース</td> </tr> <tr> <td>指導者</td> <td>日本語教育有資格者</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>期間</td> <td>2021. 7月～2022. 1月</td> <td>2021. 7月～2021. 12月</td> </tr> <tr> <td>時間</td> <td>92時間 (2時間×46回、週2回)</td> <td>82時間 (2時間×41回、週2回)</td> </tr> <tr> <td>プログラム</td> <td>入門 10時間 + 『わたしを伝える日本語CINGA版』 82時間</td> <td>『わたしを伝える日本語CINGA版』 82時間 (入門部分は協会の別事業として実施)</td> </tr> <tr> <td>アプローチ</td> <td>マスターテキストアプローチ</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>形態</td> <td>オンライン</td> <td>オンラインと対面の併用</td> </tr> <tr> <td>特徴</td> <td colspan="2">自己表現活動中心、対話、協働学習、自律学習促進、受容、産出、やりとりの能力をバランスよく促進</td> </tr> <tr> <td>学習者の募集地域</td> <td>主に関東地域</td> <td>ひたちなか市および近隣市町村</td> </tr> </table>	コース名	CINGAコース	ひたちなかコース	指導者	日本語教育有資格者	同左	期間	2021. 7月～2022. 1月	2021. 7月～2021. 12月	時間	92時間 (2時間×46回、週2回)	82時間 (2時間×41回、週2回)	プログラム	入門 10時間 + 『わたしを伝える日本語CINGA版』 82時間	『わたしを伝える日本語CINGA版』 82時間 (入門部分は協会の別事業として実施)	アプローチ	マスターテキストアプローチ	同左	形態	オンライン	オンラインと対面の併用	特徴	自己表現活動中心、対話、協働学習、自律学習促進、受容、産出、やりとりの能力をバランスよく促進		学習者の募集地域	主に関東地域	ひたちなか市および近隣市町村
コース名	CINGAコース	ひたちなかコース																											
指導者	日本語教育有資格者	同左																											
期間	2021. 7月～2022. 1月	2021. 7月～2021. 12月																											
時間	92時間 (2時間×46回、週2回)	82時間 (2時間×41回、週2回)																											
プログラム	入門 10時間 + 『わたしを伝える日本語CINGA版』 82時間	『わたしを伝える日本語CINGA版』 82時間 (入門部分は協会の別事業として実施)																											
アプローチ	マスターテキストアプローチ	同左																											
形態	オンライン	オンラインと対面の併用																											
特徴	自己表現活動中心、対話、協働学習、自律学習促進、受容、産出、やりとりの能力をバランスよく促進																												
学習者の募集地域	主に関東地域	ひたちなか市および近隣市町村																											

4)実施地域について

多角的な視点で、人とつながるための基礎日本語教育を実践研究するため、日本語教育はCINGAコースとひたちなか市国際交流協会の2コースで実施した。ひたちなか市国際交流協会を選んだ理由の1つは、CINGAが2020年度に茨城県で実施した「日本語学習支援者研修プログラム普及事業」で日本語指導者と協働関係があり、地域の教室での対話的な活動と日本語教師による基礎教育の関係について問題意識を共有していたからである。ひたちなか市国際交流協会の入門の学習者には域内の企業社員の家族も多く、日本に定住化する傾向もあることから、生活者のための基礎日本語教育を実践・研究するためのモデル地域として適していた。

5)実施形態

CINGAコースは、日本の全国各地域での公的日本語教育のあり方を提案するため、遠隔地にも学習機会が届けられるオンラインで実施した。参加者は主に関東近県在住者を対象とした。社会状況が許せば、対面でカリキュラムについてのヒアリングを行う予定であったが、結果的に全てオンラインで行うこととなった。

学習テーマと「日本語教育の標準的なカリキュラム案」との関係は以下のとおり

カリキュラム		
入門	5回×2時間	発音、ひらがな、カタカナ、挨拶、生活会話
初級	40回×2時間	教材『わたしを伝える日本語』CINGA版
	テーマ	カリキュラム案の該当項目
U.1	自己紹介	人とかかわる>他者との関係を円滑にする
U.2	家族・仲間	人とかかわる>他者との関係を円滑にする
U.3	好きなこと	人とかかわる>他者との関係を円滑にする
U.4	わたしの1日	目的地に移動する>公共交通機関を利用する
U.5	先週の土曜日	自身を豊かにする>余暇を楽しむ
U.6	店・施設	自身を豊かにする>余暇を楽しむ 消費活動を行う>物品購入・サービスを利用する
U.7	地域の活動	社会の一員となる>地域社会に参加する
U.8	仕事	働く>仕事をする
U.9	体・健康	健康・安全に暮らす>健康を保つ
U.10	きまり・お願い	社会の一員となる>地域・社会のルール・マナーを守る
U.11	防災	健康・安全に暮らす>安全を守る
U.12	わたしの考え	自身を豊かにする>余暇を楽しむ
U.13	毎日の生活	人とかかわる>他者との関係を円滑にする
U.14	好きなこと・得意なこと	人とかかわる>他者との関係を円滑にする
U.15	これからしたいこと	社会の一員となる>地域社会に参加する
U.16	嬉しかったこと	人とかかわる>他者との関係を円滑にする
U.17	地域の情報	社会の一員となる>地域社会に参加する
U.18	困ったこと	健康・安全に暮らす>安全を守る
U.19	ヨーグルト、食べる?	人とかかわる>他者との関係を円滑にする
U.20	わたしの幸せ	人とかかわる>他者との関係を円滑にする

実施期間	令和 3年 7月13日～令和 4年 1月21日	授業時間・コマ数	CINGAコース 1回 2時間 × 46回 =92時間 ひたちなかコース 1回 2時間 × 41回 =82時間							
対象者	CINGAコース 関東近県在住者(1名は関西在住) ひたちなかコース 茨城県ひたちなか市・水戸市在住者	参加者	総数 20人 CINGAコース 学習者 10人, 指導者 2人 ひたちなかコース 学習者 6人, 指導者 2人							
使用した教材・リソース	CINGA「わたしをつたえるにほんご1.2 CINGA版」、文化庁「つながるひろがるにほんごでのくらし」 国際交流基金「まるごとプラス」、「いろどり」、さぼうと21「はじめの500語」									
学習者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1			2	1	1	1		4	
	エジプト(1人), ガーナ(1人), トルコ(1人), バングラデシュ(2人), コロンビア(1人)									

日本語教育の実施内容 ①CINGAコース

回数	開講日時	時間数	場所	学習者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和3年7月13日(火) 19:00～21:00	2	オンライン	10	入門	・発音 ・かな ・あいさつ	西山陽子	
2	令和3年7月16日(金) 19:00～21:00	2	オンライン	10	入門	・かな ・数字 ・あいさつ	萬浪絵理	
3	令和3年7月20日(火) 19:00～21:00	2	オンライン	10	入門	・かな ・数字 ・疑問詞	西山陽子	
4	令和3年7月23日(金) 19:00～21:00	2	オンライン	9	入門	・かな ・数字 ・疑問詞	萬浪絵理	
5	令和3年7月27日(火) 19:00～21:00	2	オンライン	10	入門	・かな ・数字 ・疑問詞	西山陽子	

6	令和3年7月30日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	9	自己紹介	・教材、学習方法についての説明 ・U.1 自己紹介	萬浪絵理	
7	令和3年8月3日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	10	自己紹介	・U.1 自己紹介復習・練習 ・U.2 関連語彙 ・テスト	西山陽子	
8	令和3年8月6日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	10	家族・仲間	・U.2 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
9	令和3年8月17日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	10	家族・仲間	・U.2 復習、わたしの話発表、ふりかえり ・U.3 導入	西山陽子	
10	令和3年8月20日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	10	好きなこと	・U.3 動画視聴・内容確認・QA練習	西山陽子	
11	令和3年8月24日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	9	好きなこと	・U.3 復習、わたしの話発表、ふりかえり ・U.4 導入	西山陽子	
12	令和3年8月27日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	10	わたしの一日	・U.4 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
13	令和3年8月31日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	10	わたしの一日	・U.4 復習、わたしの話発表、ふりかえり ・U.5 導入	西山陽子	
14	令和3年9月3日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	9	先週の土曜日	・U.5 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
15	令和3年9月7日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	9	先週の土曜日	・U.5 復習、わたしの話発表、ふりかえり ・U.6 導入	西山陽子	
16	令和3年9月10日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	10	店・施設	・U.6 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
17	令和3年9月14日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	10	店・施設	・U.6 復習、わたしの話発表、ふりかえり ・U.7 導入	西山陽子	
18	令和3年9月17日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	10	地域の活動	・U.7 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
19	令和3年9月21日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	10	地域の活動	・U.7 復習、わたしの話発表、ふりかえり ・U.8 導入	西山陽子	
20	令和3年9月24日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	8	仕事	・U.8 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
21	令和3年9月28日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	9	仕事	・U.8 復習、わたしの話発表、ふりかえり ・U.9 導入	西山陽子	
22	令和3年10月1日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	10	体・健康	・U.9 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
23	令和3年10月5日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	9	体・健康	・U.9 復習、わたしの話発表、ふりかえり ・U.10 導入	西山陽子	
24	令和3年10月8日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	9	きまり・お願い	・U.10 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
25	令和3年10月12日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	9	きまり・お願い	・U.10 復習、わたしの話発表、ふりかえり	西山陽子	
26	令和3年10月15日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	7	復習	・U.1-10 復習	萬浪絵理	
27	令和3年10月19日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	9	テスト	・U.1-10 テスト	西山陽子	
28	令和3年10月22日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	9	防災	・U.11 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
29	令和3年10月26日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	9	防災	・U.11 復習、わたしの話発表、ふりかえり ・U.12 導入	西山陽子	
30	令和3年10月29日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	8	わたしの考え	・U.12 動画視聴・内容確認・QA練習 ・ビクターセッション	萬浪絵理	
31	令和3年11月2日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	8	わたしの考え	・U.12 復習、わたしの話発表、ふりかえり ・U.13 導入	西山陽子	

32	令和3年11月5日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	9	毎日の生活	・U.13 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
33	令和3年11月9日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	8	毎日の生活	・U.13 復習、わたしの話発表、ふりかえり ・U.14 導入	西山陽子	
34	令和3年11月12日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	8	好きなこと・得意なこと	・U.14 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
35	令和3年11月16日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	7	好きなこと・得意なこと	・U.14 復習、わたしの話発表、ふりかえり ・U.15 導入	西山陽子	
36	令和3年11月19日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	6	これからしたいこと	・U.15 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
37	令和3年11月23日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	6	これからしたいこと	・U.15 復習、わたしの話発表、ふりかえり ・U.16 導入	西山陽子	
38	令和3年11月26日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	8	うれしかったこと	・U.16 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
39	令和3年11月30日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	7	うれしかったこと	・U.16 復習、わたしの話発表、ふりかえり ・U.17 導入	西山陽子	
40	令和3年12月3日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	6	地域の情報	・U.17 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
41	令和3年12月7日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	7	地域の情報	・U.17 復習、わたしの話発表、ふりかえり ・U.18 導入	西山陽子	
42	令和3年12月10日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	8	困ったこと	・U.18 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
43	令和3年12月14日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	8	ヨーグルト、食べる?	・U.19 動画視聴・内容確認・QA練習	西山陽子	
44	令和3年12月17日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	5	わたしの幸せ	・U.20 動画視聴・内容確認・QA練習	萬浪絵理	
45	令和3年12月21日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	8	テスト	口頭テスト、筆記テスト	西山陽子	
46	令和4年1月21日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	7	発表・ふりかえり	まとめの発表、ゲストセッション	萬浪絵理	

日本語教育の実施内容 (②ひたちなかコース)

回数	開講日時	時間数	場所	学習者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和3年7月30日(金) 10:00~12:00	2	那珂湊コミュニティーセンター・zoom	6	自己紹介	・教材、学習方法についての説明 ・U.1 導入、動画視聴、言葉、Q&Aの練習	仙波美哉子	
2	令和3年8月3日(火) 10:00~12:00	2	那珂湊コミュニティーセンター・zoom	5	自己紹介	・U.1 Q&A、わたしのはなし	勝山紘子	
3	令和3年8月6日(金) 10:00~12:00	2	那珂湊コミュニティーセンター・zoom	5	家族・仲間	・U.1わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.2 導入、動画視聴、言葉、Q&Aの練習	仙波美哉子	
4	令和3年8月10日(火) 10:00~12:00	2	那珂湊コミュニティーセンター・zoom	6	家族・仲間	・U.2 復習、Q&A、わたしのはなし	仙波美哉子	
5	令和3年8月13日(金) 10:00~12:00	2	オンライン	5	好きなこと	・U.2わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.3 導入、動画視聴、言葉、Q&Aの練習 ・文法テスト	勝山紘子	
6	令和3年8月17日(火) 10:00~12:00	2	オンライン	6	好きなこと	・U.3 復習、Q&A、わたしのはなし	勝山紘子	
7	令和3年8月20日(金) 10:00~12:00	2	オンライン	6	わたしの一日	・U.3わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.4 導入、動画視聴、言葉、Q&Aの練習	仙波美哉子	
8	令和3年8月24日(火) 10:00~12:00	2	オンライン	5	わたしの一日	・U.4 文法、助詞の復習、動画視聴、Q&A、わたしのはなし	勝山紘子	
9	令和3年8月27日(金) 10:00~12:00	2	オンライン	6	先週の土曜日	・U.4わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.5 導入、動画視聴、文法説明	仙波美哉子	

10	令和3年8月31日(火) 10:00~12:00	2	オンライン	5	先週の土曜日	・U.5 再話、動画視聴、言葉、Q&A	勝山 紘子
11	令和3年9月3日(金) 10:00~12:00	2	オンライン	6	店・施設	・U.5 わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.6 導入、動画視聴、文法、表現	仙波美哉子
12	令和3年9月7日(火) 10:00~12:00	2	オンライン	5	店・施設	・U.6 言葉、形容詞、動画視聴と再話、Q&A	勝山 紘子
13	令和3年9月10日(金) 10:00~12:00	2	オンライン	5	地域の活動	・U.6 わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.7 導入、言葉、動画視聴	仙波美哉子
14	令和3年9月14日(火) 10:00~12:00	2	オンライン	5	地域の活動	・U.7 言葉、動画視聴、内容確認、再話、Q&A	勝山 紘子
15	令和3年9月17日(金) 10:00~12:00	2	オンライン	5	仕事	・U.7 わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.8 導入、言葉、文法、内容確認	仙波美哉子
16	令和3年9月24日(金) 10:00~12:00	2	オンライン	6	仕事	・U.8 復習、動画視聴、内容確認、Q&A	仙波美哉子
17	令和3年9月28日(火) 10:00~12:00	2	オンライン	5	これまでの振り返り	・U.8 わたしのはなし復習、発表、Q&A U.8 までの振り返り	勝山 紘子
18	令和3年10月1日(金) 10:00~12:00	2	オンライン	4	体・健康	・U.9 導入、言葉、文法、動画視聴、内容確認	仙波美哉子
19	令和3年10月5日(火) 10:00~12:00	2	オンライン	5	体・健康	・U.9 復習、内容確認、Q&A、わたしのはなし	勝山 紘子
20	令和3年10月8日(金) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	5	きまり・お願い	・U.9 わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.10 導入、言葉、動画視聴	仙波美哉子
21	令和3年10月12日(火) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	6	きまり・お願い	・U.10 内容確認、Q&A	勝山 紘子
22	令和3年10月15日(金) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	3	防災	・U.10 わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.11 導入、言葉、動画視聴	仙波美哉子
23	令和3年10月19日(火) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	5	防災	・U.11 内容確認、Q&A	勝山 紘子
24	令和3年10月22日(金) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	6	防災	・U.11 わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.11 復習	仙波美哉子
25	令和3年10月26日(火) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	5	わたしの考え	・U.12 導入、文法、言葉、動画視聴、内容確認、 わたしのはなしの準備	勝山 紘子
26	令和3年10月29日(金) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	5	わたしの考え	・U.12 わたしのはなし復習、発表、Q&A ・ゲストセッション	仙波美哉子
27	令和3年11月2日(火) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	5	毎日の生活	・U.13 導入、言葉、動画視聴、文法、内容確認	勝山 紘子
28	令和3年11月5日(金) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	5	毎日の生活	・U.13 Q&Aの練習、文法復習、わたしのはなし	仙波美哉子
29	令和3年11月9日(火) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	5	好きなこと、得意なこと	・U.13 わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.14 導入、言葉、動画視聴	勝山 紘子
30	令和3年11月12日(金) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	5	好きなこと、得意なこと	・U.14 動画視聴、内容確認、Q&A、文法、クイズ	仙波美哉子
31	令和3年11月16日(火) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	5	これからしたいこと	・U.14 わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.15 導入、言葉、文法、動画視聴、内容確認	勝山 紘子
32	令和3年11月19日(金) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	5	これからしたいこと	・U.15 動画視聴、内容確認、Q&A、わたしのはなし	勝山 紘子
33	令和3年11月26日(金) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	4	うれしかったこと	・U.15 わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.16 導入、言葉、文法、動画視聴、内容確認	仙波美哉子
34	令和3年11月30日(火) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	4	うれしかったこと	・U.16 動画視聴、内容確認、Q&A、わたしのはなし	勝山 紘子

35	令和3年12月3日(金) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	3	地域の情報	・U.16 わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.17 導入、言葉、文法、動画視聴、内容確認	仙波美哉子
36	令和3年12月7日(火) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	5	地域の情報	・U.17 動画視聴、内容確認、Q&A、わたしのはなし	勝山紘子
37	令和3年12月10日(金) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	3	困ったこと	・U.17 わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.18 導入、言葉、文法、動画視聴、内容確認	仙波美哉子
38	令和3年12月14日(火) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	3	困ったこと	・U.18 動画視聴、内容確認、Q&A、わたしのはなし	勝山紘子
39	令和3年12月17日(金) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	4	ヨーグルト、食べる?	・U.18 わたしのはなし復習、発表、Q&A ・U.19 導入、言葉、文法、動画視聴、内容確認	仙波美哉子
40	令和3年12月21日(火) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	4	わたしの幸せ	・U.19 動画視聴、内容確認 ・U.20 導入、言葉、動画視聴、内容確認、Q&A、わたしのはなし	勝山紘子
41	令和3年12月24日(金) 10:00~12:00	2	ふぁみりこらぼ オンライン併用	3	テスト	・U.20 わたしのはなし復習、発表、Q&A ・最終テスト	仙波美哉子

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①CINGAコース

【第32回 令和3年11月5日】

1)前週のビジターセッションふりかえり:

グループ活動録画におけるゲスト(日本語母語話者)の発話のうち、学習者に理解できる表現部分を予め選んでおき、再生しながらフィードバックを行った。分析的に発話を見返すことによって、クラスで学んだ表現が使われていることが理解され、クラスの学習と一般の人との日本語対話実践とのつながりを認識してもらうことができた。

2)教材「わたしをつたえるにほんごCINGA版2」のユニット13(テーマ「毎日の生活」)復習:

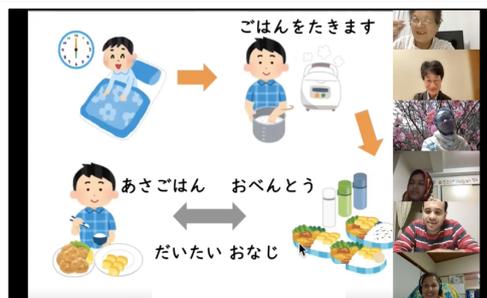
登場人物のストーリー動画を再生し、内容確認、シャドーイング、再話を行った。再話の際に、特に行為の順序を表す「～して」という表現が理解できているかを確認した。また、「仕事用のくつをはいて」という表現を取り上げ、「○○用のくつ」の例を参加者に挙げてもらったところ、サッカー用のくつ、雨用のくつ、山登り用のくつ、などが挙げられた。

3)U.13の登場人物の話について各自が宿題で作ってきたQAをペアで練習:

zoom上でペアに分かれ、登場人物の話について作った質問してもらった。10分後、メインセッションに戻ってから、2組にQAを言ってもらった。

4)自宅課題の説明:

自宅課題としてU.13のテーマ「毎日の生活」で自分のことが作文できるよう、学習者のひとりに簡単に話してもらい、提出締切時間を確認した。



○取組事例②CINGAコース

【第46回 令和4年1月21日】

CINGAコース最終日は、最終スピーチ発表会とした。

最終日は年明けとなり、事前の45回目(12月)とは少し時間をあけての実施となった。

その間、事前に準備してきたエッセイについて、希望者にはzoom上で個別フィードバックの時間をとった。

フィードバックの時間には、書いてきた文章を修正したり、本人が言いたいことを文章にする手助けをしたりした。

●参加者

コースの学習者に加えて、コース中盤のビジターセッションに参加してくれたビジターと本事業運営委員に参加してもらった。

●発表会構成

学習者によるエッセイ発表、ビジターと学習者混在の小グループでの質疑応答のセッションを2回行った。

日本語で「自己表現をする」、「人とやりとりができるようになる」という目標をもって学んできたコースの集大成として、

達成感を感じられる最終回となるように構成した。

●クラスの様子

当日、学習者はエッセイを発表する練習をしっかりとってきている様子だった。

かなり緊張していたものの、それぞれ自分のエッセイを覚え、よどみなく発表することができていた。

また、グループに分かれての質疑応答の時間も、質問されたことに対しわかることには答え、

わからないことには「わからない」と伝えることができていた。

ある学習者がエッセイ発表のために覚えて発表した表現をそのままビジターとのやりとりにも応用していたのは、興味深かった。

自分が使用できる数少ない表現を、必要なときに取り出して活用できるようになっている様子が窺われた。

それぞれ自分の表現したいことをエッセイの形で表し、それに対してビジターとの質疑応答もできたことで、

達成感をもって最終発表を終えることができた。

発表終了後、今後の学習についてのアドバイス、各自の居住地域の日本語教室開催情報などを伝えた。



○取組事例③ひたちなかコース

【第23回 令和3年10月19日】

『わたしをつたえるにほんご2』Unit.11「防災」を学習した。テキストの内容を確認した後、それぞれに自宅にどのような準備をしているかを話し合った。

1)テキストに出てくる単語の確認をした。地震、台風、火事は理解できているが、洪水、断水、火災、消火器は意味の解説を必要とした。断水については、「わからない」という学習者に対し、担当者が答える前に、別の学習者が「水がとまった」と説明した。

2)「ナムさん」の話に関連した、「災害の準備をしていますか?」という担当者の問いに対し、「いつも準備した」と答えた。また、「地震のとき、何が鳴りますか?」の問いに「alert」と答えた。その後、別の学習者がテキストに出てくる単語の通りに「地震警報」と答えた。防災用品についても、英語の単語で答えがちであった。英語で理解を進めている学習者には、日本語に置き換える意識づけが必要だと感じた。

3)自分の体験談を話すとき(自由会話)、助詞が抜けることが多い。教師が助詞を補いながらリキャストした。

4)登場人物の話の内容を口頭で説明してもらった。おおむね、テキスト内の重要な情報をつかむことができていた。

宿題は、「わたしのはなし(これまでにあった災害について、または災害にそなえている準備など)」を作文して担当者に送ること、Unit12の「あたらしいことば」を調べる、Unit12の動画を繰り返し観て、リピート練習をすること。

地震が起らない国から来た学習者は、地震への不安を話していた。また、火事、病気、けが、事故のときの119番や110番のかけ方についても確認をした。

後半には、テキストに出てきた単語を用いてディクテーションを行なった。長音を忘れる、ヨをユにしている、など間違いはあるが、7、8割方書けており、「わたし、〇〇だけだった、あとはぜんぶできた!」「わたしは3つね」などと、できたことに誇らしげに言い合っていた。



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

本取組では地域の日本語教室など地域市民との人間関係構築の場において、他者との交流をしながら自らの日本語習得伸ばしていくための土台となる、自己表現するための基礎日本語能力と対話の姿勢、および自律学習能力を養うことを目標とした。自己表現するための基礎日本語能力は、学習者によるエッセイ、スピーチなどの成果物や会話テストにより検証した。対話の姿勢は、行動観察により検証した。また、自律学習能力の獲得は、インタビュー、学習者アンケート、授業記録により検証した。下記にそれぞれの結果について述べる。

1) 基礎日本語能力について

各ユニットのテーマにおいて、身近な出来事や気持ちや考えを他者に伝えるために短いエッセイを書くことができるようになった。書いたものをもとに、スピーチをしたり、お互いのスピーチ内容について質問あったりすることができるようになった。学習者へのアンケート結果からは本取組の日本語コース参加前に比べ、9割の学習者が自分の日本語能力が向上したと自認していることがわかった。また、インタビューからは「日常生活の中でたくさん質問できるようになった」、「1人で買い物したり、人と話したりできるようになった」、「娘の日本語の本を見るようになった」など、実際の行動に変化が生じていることもわかった。

また、コース終了時に行った会話テストの結果から、学習者が学習内容について概ね理解していること、学習内容相応のレベルにおける日本語でのやりとりを行う基礎的な日本語能力を身につけていることがわかった。

2) 対話の姿勢について

アンケート結果では、約9割の学習者が「グループで、ほかの人の話を聞いて、それについて話すこと」が「自分の学習にとっても役に立った」「役に立った」と回答していた。グループ活動の行動観察では、初めのうち他の学習者と会話を続けられず黙ってしまう場面も見られたが、コース終盤では学習者が自発的にグループ内で対話を進めていく様子が見られるようになった。本コース使用教材が学習者同士の対話を促すものとなっていること、学習者相互のやりとりが行われるよう教師が常に働きかけていたこと、それに加え、多様な背景を持つ学習者が場を共有していたことにより、情報共有が日本語学習のトピックとして有効に働いていたことも、対話の必然性を生み、学習動機につながっていたと思われる。

3) 自律学習能力について

インタビューでは、ビデオの音声聞いて覚えるという本コースでの学習方法が「覚えやすい」との声が多く挙がっていた。アンケート結果でも、シャドーイングが自分の学習に「大変役立った」「役立つ」との回答がほぼ100%であった。この教材を利用し、家庭や通勤電車の中など、生活の隙間時間に学習している学習者もいた。また、インタビューからは、クラスメイトが書いたエッセイを読み、書き写して内容理解に努めていたり、以前使っていたテキストの文法説明を参考書的に使用したりするなど、それぞれ本コースの学習と自らの持つリソースを組み合わせる学習を進めていた様子も窺われた。

また、本コース修了後、9割の学習者がもっと日本語を学習したいと回答しており、次のコース開設を期待する学習者も多かった。

1)2)3)から、本コースでの学習が学習者の基礎的な日本語能力および対話の姿勢の養成に寄与したこと、その結果日常生活における他者との交流における心理的ハードルを下げたこと、そして本コースに参加したことにより、新たな学習方法の選択肢を得て自ら学習を進めることができていたことがわかった。これらのことから、本取組の目標を達成することができたと考える。

また、今回のコースの参加者には子育て中の学習者、勤務時間が長いため教室へ通うことが難しい学習者のほか、身体に障害を持つ学習者、コロナ禍で外出を控えている高齢者などが含まれていた。オンラインで行ったことや、募集時より家族や周囲の手助けを求めたことにより、対面の教室では学習機会が届かない人々にも学習機会を届けることができた。学習ニーズを持ちながらもこれまで学習の機会がなかった学習者に対し、新たな学習機会の届け方を示すことができたことも、本コースの成果である。

(3) 今後の改善点について

オンラインでのコース実施により、学習機会が届きにくい層へ学習機会を提供できた一方、オンラインで使用する機器やオンラインツール使用のフォローには限界があった。

また、学習が伸び悩む人に対してなど、個別対応の必要性を認識したものの、その時間をどのように捻出するかも課題となった。

CINGAコースのように、基礎日本語教育の場と、地域の日本語教室の双方の場を持たない場合、学習者をコース修了後にそれぞれの地域における学習の場に繋いでいくことも課題である。

また、本コースに参加した学習者はコース目標とした基礎的な日本語能力及び自律的な学習能力を概ね身につけたと考えられるものの、地域の日本語教室において実際に他者と相互理解のためのコミュニケーションを行いながら日本語学習を向上させていけるようになっていけるようになっているかは、追跡調査などの方法で検証する必要がある。

取り組みの成果の発信や普及及び住民の日本語教育への理解の促進【活動の名称：事業報告会の実施】

取組の目標	「生活者」のために日本語教師が担う公的な基礎日本語教育の設計と方法についての重要性を全国の自治体や国際交流協会に向けて発信・啓発すること。		
内 容	日本語教育実践の結果を、実践研究会において分析・考察した結果をまとめ、オンラインで報告会を行った。また、報告会参加者と基礎日本語教育についての意見交換を行った。 【第1部 報告会】 趣旨説明 基調講演「共生社会のためのつながる日本語を育む基礎的な日本語教育」 事業報告（コース概要、学習活動と結果、CINGAコース特徴、ひたちなかコース特徴、まとめ、質疑応答） 【第2部 意見交換会】 意見交換「多文化共生を目指した基礎日本語教育のあり方とは？」		
開催時間数	総時間 3 時間	内 訳	3時間 × 1 回 (第1部:2時間、第2部:1時間)
参加対象者	全国の自治体や国際交流協会の日本語教育担当者、生活者のための日本語教育に関心のある日本語教師など	参加者数 (内 外国人数)	156 人(人)

学習者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
活動の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	学習者数	テーマ	概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和4年2月18日(金) 13:30~16:30	3	オンライン	156	事業報告	第1部 基調講演、事業報告 第2部 意見交換会	西口光一	萬浪絵理、西山陽子、 勝山紘子、仙波美哉子		

(1)特徴的な活動風景

○取組事例①

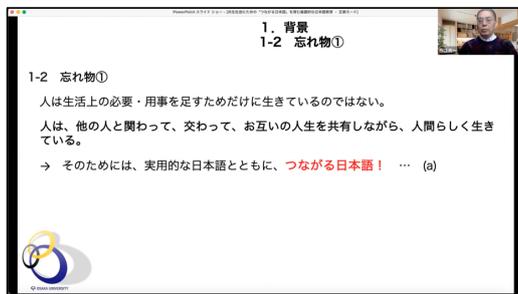
【令和4年2月18日】

【第1部 報告会】

CINGA日本語学習教材『わたしをつたえるにほんご(わたにほ)』を使用し、地域日本語教室での対話的な日本語活動につなげるために実施した日本語教師による基礎日本語コースについて報告を行った。事業趣旨説明の後、クラスの動画およびアンケート等のデータを用いてコース概要と実践結果について報告した。また、生活者のための日本語教育に適した内容と方法について、自己表現活動中心の基礎日本語教育提唱者である西口光一氏が基調講演を行った。

【第2部 意見交換会】

上記の参加者の中から、さらに「地域日本語教育の体制づくり事業を実施中、または実施検討中の地域の行政担当者、国際交流協会、総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーター、地域日本語教育の推進に関わる有識者」に参加対象を絞り、第1部の内容をふまえた意見交換会を行った。



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

本事業では、日本がほとんどまたは全くわからない「生活者としての外国人」を地域日本語教室等での対話的な日本語活動につなぐために、その前段階で日本語教師が担うべき公的な基礎日本語教育の方法と内容について、実践研究をとおして提案することを目的とした。また、それにより、各自治体の多文化共生社会の実現を目的とする日本語教育体制整備に資することをめざした。

このため、本報告会では、日本語教師が行う公的な基礎日本語教育の設計と方法についての重要性を全国の自治体や国際交流協会に向けて発信・啓発することを目的とした。

報告会実施後のアンケートは、第1部参加者156名のうち104名からの回答があり、回答の99パーセントが報告会を「よかった」および「とてもよかった」と回答する非常に満足度の高い結果となった。参加者の事前アンケートによる回答では参加者の報告会参加理由は主に以下3つであった。①地域日本語教育の実践者であり、地域日本語教育に関心がある、②地域日本語教育における対話的活動に関心がある、③自治体が関与する公的な基礎日本語教育に関心があるアンケートの結果から、これらの関心を持つ参加者の期待に沿う報告会であったと言える。

アンケートコメント「基礎日本語教育」はどうあるべきかということを考えるための重要な観点が立体的にとらえられた。実践の動画も素晴らしく「日本語教師が果たすべき役割」、あり方について、多くの人にと共有したい内容だった」というように、参加者が基礎日本語教育を考えるための機会となったことが窺われた。「報告会によって「生活者としての外国人」のための日本語教育についての理解が深まったか」、「報告会に参加して、ご自身の実践の場を考えていく上で参考になった点はあるか」との質問に対しては、どちらも95パーセント以上が「あった」「大いにあった」と回答した。以上、報告会の実施により、生活者のための日本語教育のあり方について、実践に基づく提案をおこない、地域日本語教室のボランティア主体の活動と並んで公的に日本語教師が有償で関わる基礎的な日本語教育の有効性について関係者の理解を促進する、という目標を十分に達成したものとする。

(その他の報告会アンケートコメントは、事業評価欄に引用)

●運営委員による評価コメント:

- ・たいへん説得力のある報告会であった。西口先生の基調講演と、時々宇佐美先生のコメントが、報告内容を補強していてよいバランスだった。
- ・具体的な実践をビデオで見せたことも良かった。ビデオを見せながら、何が起ったのか、教師は何をしたかという解説がよかった。
- ・第2部のグループセッションで、タイトルにあった「地域日本語教室につながる」という部分の検討があるとよかった。
- ・報告会には多くの方が参加されており、基礎教育へのニーズに着目している人、CINGAが取り組んでいることへの期待(評価)としての人数の反映ではないか。
- ・報告会自体を人材育成の場と捉えることもできる。

(3) 今後の改善点について

第2部参加者33名からのアンケート結果では、約80パーセントが意見交換会を「よかった」および「とてもよかった」と回答する満足度の高い結果となった。しかし、グループワークに分かれての意見交換の際、「立場と背景が違い、よかった部分と話が盛り上がらなかった部分があった」、「議論のための問いを明確に示していただいてもよかった」など、意見交換がスムーズに進まないグループがあったことが窺われた。

この要因として2つ考えられる。事前に参加対象の属性を絞ったものの、人数バランスの問題から立場や役割が違う人がグループに混在したため、運営側が問いをあえて絞らなかったこと。もう1つは、グループ内での意見を交換する際の前提の差が大きく、的を絞った意見交換にまで辿り着けなかったことが考えられる。同時に、参加者それぞれが報告会の内容に関して自らが抱えている問題や疑問点について、事情が分かり合える相手としっかり意見交換したいという希望を持って参加していたことがわかった。今後、このような意見交換会を実施する際は、グループ討議におけるメンバー構成により配慮を行い、よりよい意見交換会としたい。

尚、第2部は、本来、生活者のための公的な日本語教育設置を検討する自治体職員や運営を担う国際化協会を主な対象として狙っていたが、結果として、これらの層は第1部のみの参加が多かった。これらの層の参加を促進するために、全3時間の報告会プログラムとは異なるアプローチも検討したい。

任意取組<取組名>【活動の名称：基礎日本語教育実践研究会】

取組の目標	日本語教育の目標を具体化し、評価のために必要なデータを検討、収集すること。2コース合同で日本語教育の評価を出すこと。また、コース評価の視点について、実践の中から導き出すこと。										
内 容	<p>研究会は年度内に3回、日本語教育の開始前／中間／終了後にオンラインで開催し、各コースの様子・結果を共有した。更に、学習活動の結果や課題を共有し、日本語教育終了後に分析、評価した。</p> <p>第1回： 教育評価に精通した講師から研究の視点と評価指標の立て方を学び、コースの評価指標を再検討した。評価のために必要なデータの種類の検討した。</p> <p>第2回： CINGAおよびひたちなか市国際交流協会におけるコース参加者の記録や成果物を共有しながら各コースの中間評価を行い、コース後半の着眼点について検討した。</p> <p>第3回： アンケート、テスト、行動記録などのデータをもとに指導者がまとめたコースごとの評価を報告しあい、講師と質疑を行った。</p>										
開催時間数	総時間 6 時間					内 訳 2時間 × 3 回					
参加対象者	CINGAコース指導者、ひたちなかコース指導者							参加者数 (内 外国人数)		4 人(0 人)	
学習者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加者数	研究会のテーマ	概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和3年5月29日(土) 10:00~12:00	2	オンライン	4	基礎日本語教育の 評価方法	日本語教育の評価について、講師から助言 を得ながら目標設定について検討	宇佐美洋	萬浪絵理、西山陽子、 勝山紘子、仙波美哉子
2	令和3年10月16日(土) 17:00~19:00	2	オンライン	4	中間評価	各コース中間評価、 後半の着目点に関する検討	宇佐美洋	萬浪絵理、西山陽子、 勝山紘子、仙波美哉子
3	令和4年2月4日(金) 16:30~18:30	2	オンライン	4	コース全体の評価	コースの到達目標、方向目標に対する 最終評価の方法の検討	宇佐美洋	萬浪絵理、西山陽子、 勝山紘子、仙波美哉子
計		6		12				

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回実践研究会 令和3年5月29日】

本事業の日本語教育の理念の価値を他者と共有するために評価が必要となる。コースの目標と評価指標を設定するために、まず講師の宇佐美洋氏から目標の種類や構造化について講義を受けた。そして、本事業の日本語教育の目的と可視化したいことを念頭に置きながら、講師と質疑応答を行った。何を、何のために、どのように、何に基づいて評価するか、実践研究にあたって言語化すべきことが明確になった。



○取組事例②

【第2回 令和3年10月16日】

日本語教育を開始してちょうど回数が半分程度の折返し地点で第2回実践研究会を実施した。はじめに、開始前に決めた目標と評価指標を確認した。その後、CINGAコース、ひたちなかコースそれぞれが日本語教育について中間報告を行い、実践研究会講師から質問やコメントを受けながら、中間地点での成果と課題について確認した。コース後半で着目すべきポイントについて検討し、対話や自律学習の姿勢について、個人の変容の観察が重要であることを確認した。



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

実践研究会の目標は、日本語教育の目標を具体化し、評価のために必要なデータを検討、収集すること。2コース合同で日本語教育の評価を出すこと。また、コース評価の視点について、実践の中から導き出すことであった。

日本語教育評価の有識者を交えて事業年度内に3回の実践研究会を持つことにより、この事業の日本語教育をとおして何に着目するのか、常に原点に立ち帰りながら実践を進めることができた。

まず、第1回に日本語教育の目標を具体化することができた(「日本語教育の取組」に記載)。本事業の目的においては、到達目標と同時に方向目標が重要であること、また、コース開始前に指標を立てるよりも、日本語教育実践をとおして着目点を模索していくことが重要であることを確認できた。

目標が具体化されたことにより、評価のために必要なデータの種類の検討し、リスト化できた。また、日本語教育の学習者募集の際に、学習成果物やインタビュー等のデータ収集への協力を明示し、受講の条件とすることができた。

第2回に日本語教育の中間評価、第3回に最終評価を2コース合同で議論することができた。実践研究会での講師からの助言と議論をふまえてコース評価を再考し、その後の「事業報告会」にて発表することができた。日本語教育の成果と課題を報告した事業報告会が高評価であったことは、実践研究会の成果と考えることができる。(報告会参加者による評価については事業評価欄を参照)

●運営委員による評価コメント

- ・地域に入っていくための核となる基礎日本語教育のあり方がよく示された。
- ・「縦糸」(話を深める)と「横糸」(話を広げる)の部分を会話分析するのは、「研究」の部分としてとてもよい。(学習者を取り巻く)第三者の声、期待など、当事者の周りの人の変化についても、「研究」の対象としてとてもよい。
- ・対面はもちろん、オンラインでも十分、成果を上げることが示された。全国から学習者と日本語教師をつなぐことができる。この方法によって学習者の学習機会を増やすと同時に、従来の日本語教育では満たされない日本語教師が新たな教育実践の場をもつことになる。
- ・CINGAコースのような日本語教育は学習者の自己変容を促し、地域につながりを拡げる活動であると同時に、日本語教師のある種の狭い日本語教育観から解放する実践であると思う。こういう積み重ねから日本語教育が変わっていくのではないか。
- ・日本語教室実施過程の膨大なデータをよくまとめている。さらに分析的な視点で考察を進めると、習得に必要なことが明らかになると思われる。

(3) 今後の改善点について

日本語教育で目標とした能力の養成に本事業の日本語教育がどのように効果的であったか、より分析的な形で成果を発信することの必要性について、実践研究会講師からも運営委員からも指摘があった。今後、コース評価を実践研究発表の形でまとめることも検討したい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

本事業は、日本語がほとんどまたは全くわからない「生活者としての外国人」を地域日本語教室等での対話的な日本語活動につなぐために、その前段階で日本語教師が担うべき公的な基礎日本語教育の方法と内容について、実践研究をとおして提案することを目的とする。それにより、各自治体の多文化共生社会の実現を目的とする日本語教育体制整備に資することをめざす。

(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

検証方法:日本語教育の学習者アンケートとインタビュー、日本語指導者による学習者の行動観察、事業報告会アンケート、運営委員による評価

【学習者のニーズに対する効果】

学習者アンケートの間、「このプログラムを受けて日本語が上手になった」「このプログラムを受ける前よりも日本で生活ができるようになった」「このプログラムの内容に満足している」に対して、9割以上が「上手になった」「できるようになった」「満足している」と回答した。コースに申し込んだ計16名のうち14名が6ヶ月近くのコースに最後まで参加し、そのうち11名は出席率が90%以上であった。参加者には、子育て、就労、身体状況等の理由で時間や移動に制約のある人が8割以上であったことから、対面の地域日本語教室に通いづらいつい人々のニーズを満たすコースが実施できたと言える。

また、この事業の日本語教育では、A1～A2の基礎的な日本語能力育成のほかに、方向目標として、地域日本語教室等における対話中心の言語活動に参加するための「対話の姿勢」、および、忙しい生活の中の隙間時間に「自律的に学習する姿勢」の育成を設定していた。それに対して、「通勤電車の中で教材の動画を見ていた」「教材の話が楽しい」「クラスの友達と話しながら勉強するのがいい」といったインタビュー回答があった。また、コース前半はペアやグループでの対話が途切れる場面も多かったが、後半は、お互いの発言に対して積極的に質問やコメントをしながら会話を続ける努力が見られるようになった。これらの結果から、対話の姿勢や自律学習の姿勢を育むことができたと考えられる。

【日本語教育の内容と方法についての自治体のニーズに対する効果】

本事業では、日本語教育の体制づくりを推進する自治体に対して、基礎的な日本語教育の内容と方法について実践に基づく提案を行うことにより、地域を超えた自治体のニーズに応えることを事業目的として設定した。課題意識を持つ自治体や関係機関等を対象にして、事業報告会にて本事業における日本語教育の理念、目的目標と具体的な実践、および評価について報告した。以下に挙げる報告会アンケートコメントから、多様な参加者が基礎日本語教育を考えるための機会となったと言える。しかしながら、このニーズは単年で充足できるものではなく、CINGAは地域を超えて地域日本語教育推進の中間支援を担っていきたく考えている。本事業により、成果普及の基礎となる実践事例とデータを蓄積することができた。

アンケートコメント:

以下に報告会参加者によるアンケートコメント抜粋を項目別に引用する。本事業は、特定のニーズに対する日本語教育を実践研究し、その結果を報告会で提示するという構成で行った。よって、報告会参加者によるアンケートコメントは、報告会実施の取組のみならず、事業全体への評価と考えることができる。

尚、本事業において「基礎日本語教育」とは、日本語教師が「生活者としての外国人」に対して公的に行う基礎的な言語教育のことを意味する。アンケートコメント中の「基礎日本語教育」もこの定義で使われていることを申し添える。

1) 自分の地域における「基礎日本語教育」実践のためのヒントを得た

・人は生きるためにまず養ってくれる家や集団の中で使われる言葉を覚え、自力で生きる知恵を学び、やりたいことを実現するために言葉を使う。赤ん坊、子ども、学生、見習い、一人前、師匠、年寄り、旅行者では、段階が違うので、言葉の学び方と学ぶ理由は異なるが、「人とつながる」という軸は同じだと思います。マジョリティを代表する公的機関が、日本に住む日本語ができない人に向けて実施すべき日本語教育は何かと考えたとき、それは「私たちと繋がってください」という「基礎」日本語教育なのかなとも思いました。

・両地域の特徴をそれぞれお話しくださったことで、「基礎日本語教育」が意味することの、地域による重なり/異なりが見えたことも大変参考になりました。今後自分の地域にどう生かしていくか、というヒントを沢山いただきました。

2) 学習環境を整えることの重要性に気づいた

・育児中の学習者に対し、自治体や地域の支援者がベビーシッターなどを手配して、学習できる体制をしていることに感心した。

・子育て期の学習者の学習機会を逃さないために託児を用意する点などは、とても大切なことだと改めて思いました。

・地方では、通いたくても通えない人がたくさんいると感じており、そのために基礎日本語教育でもオンライン活用を検討すべきでは、でも本当にできるの？と思っていたところだったので、動画での学習の様子は大変参考になりました。また、評価の観点もとても分かりやすかったです。

3) 地域日本語教育における日本語教師の役割のイメージが明確になった

・生活者としての外国人と生活者としての日本人が対話して行くための、基礎の日本語教育における日本語教師の役割が明確になった。

・「基礎日本語教育」はどうあるべきかということを考えるための重要な観点が立体的にとらえられた。実践の動画も素晴らしく「日本語教師が果たすべき役割」、あり方について、多くの人に共有したい内容だった。評価の観点が、実践を意味づけ確かなものとし、実践が評価の観点を精緻化しているという往還について改めて考えた。

4) 地域日本語教育には2種類の学習の場が必要なことが理解できた

・基礎日本語を教える日本語講座と、交流型の地域日本語教室運営に関わっており、多文化共生のための日本語教室としてそれぞれがどのような役割でどのように連動すればよいかのかが分かり、非常に参考になりました。

・核になる日本語基礎教育が必要なこと、その日本語教育の実際の姿を見ることができた

・専門家「自己」表現活動を中心とした「基礎」日本語教育を行い、理解できたことと分かる言葉で対話できるようになった学習者=つながる日本語の基礎を学んだ人を地域活動や地域日本語教室に繋ぐという考え方が実践的だと思った。

・2つの日本語教室の基本理念や目指す方向性が示され、その実践を動画を交えて具体的に紹介していただけた。こういうタイプの教室が日本に広がってほしい

5) 理念に裏付けされた日本語教育の実践が自らの実践の参考になった

- ・教材、事例、実践結果などが具体的にわかりやすかったです。特に動画は興味深く拝見しました。成果が如実に現れていて参考になりました。
- ・西口先生のお話から理念・理論的に「人として生きていくための日本語教育」について考えた後、それを実際に実践しているCINGA・ひたちなかの皆様のご発表だったので、多角的に「基礎日本語教育」について考えることができました。
- ・実践報告では、理念、目標、カリキュラム設計の過程、教室活動の内容と実際の様子、評価、ふり返り、とすべてお話しくださったことが、大変参考になりました。
- ・理念、目標、活動の方法、方法選択の理由、実際の様子、成果と課題と波及効果がすべてきれいにつながっており、納得しながら話を聞くことができました。
- ・理念がはっきりと説明されていたので、文化庁の枠を超えたような実践だなと感じた。

6) 生活者に対する日本語教育と自己表現活動に対する理解が深まった

- ・生活者としての外国人の基礎日本語教育に自己表現活動が必要であることを、お話や実践を通して認識することができた。また、基礎学習の後についてもリソースや場について提案があり、大変参考になった。
- ・自己表現の日本語教育～自分を表現できる、開放できる、聞いてもらえる喜びにつながる日本語の支援に希望が感じられました。
- ・学習者としての日本語学習の活動と、生活者としての日常につながっていると感じました。そのようなものをイメージしながらも実践はむずかしく、参考になりました。
- ・学習者同士が自信を持ってやりとりを行なっていく過程に感銘しました。そこにいくまでのステップがカリキュラムとして効果的に組み立てられているのだと思います。
- ・自己表現活動については知っていましたが、それをどのような目的で基礎日本語教育として実施するのか参考になった。また、事業の評価として行われた参加者の周囲の人へのフォローアップインタビューの内容も興味深かった。

●運営委員による評価コメント:

- ・高い出席率が最後まで続いたこと、クラスが参加者に喜ばれていた証拠だと思う。目標に即した成果が見えた。
- ・理念と実践がきちんとつながっていた。学習効果が高かったこと、学習の波及効果も大いにあったことから、実践内容がよかったと判断できる。
- ・「地域日本語教室につながる」という面は、すぐには評価できないが、学習者の表現したい気持ちは「会話準備のための作文」や、グループワークの様子から、充分にわかった。
- ・「しなかったことができるようになった」とことは、生活の質の向上にもつながる。学習者自身がそれに気づいたことがよい。
- ・2つの日本語教室、それぞれの状況に沿ったプログラムが実施されていたと思う。ひたちなかの教室は対面が前提であったことが、地域日本語教育のモデルとしては汎用性がある。逆にCINGAの教室は受け皿があれば、基礎の部分を取り離して実施することが可能となるモデルになる。
- ・報告会のアンケートから、人材育成の要素も分析できるかもしれない。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果等

関東近県在住者を対象としたCINGAオンラインコースにおいては、開催情報を国際交流協会等にメールで広報した。ある地域では、国際交流財団から日本語学習希望者の紹介があった。申込みの手順や機器設置等、参加に必要な環境整備について団体の職員に間に入ってもらうことにより、参加が実現した。また、今回の参加対象は日本語学習の経験がない層であったが、日本語でやりとりのできる配偶者や家族の協力があってことで学習者本人が最後まで継続できたと思われるケースが多かった。運営側としても、学習者の学習状況や環境について、インタビュー等で家族から得られる情報は、コース運営上も実践研究上も、欠かせないものであった。オンライン学習は地域を問わず参加が可能であるものの、環境整備や途中のフォローアップをすべて遠隔で実施するのは難しいため、コース運営者と、学習者を対面でサポートしてくれる機関や支援者との連携は非常に重要であった。

地域密着のひたちなかコースにおいては、乳幼児を持つ学習者に対する保育支援について、ひたちなか市の3つのロータリークラブ(那珂湊、勝田、ひたちなか各ロータリークラブ)から、多大な協力を得た。コロナウィルスの影響によって社会状況が日々変わる中、子育てをする外国人の日本語学習の重要性が理解され、その結果として幼い子を持つ参加者が学習に集中できる環境が確保された。緊急事態宣言下、ベビーシッターの派遣が中止となった間は学習者が授業に集中できず、クラス全体のパフォーマンスにも影響が出たことから、多様な形で日本語教育を支える地域団体との連携の重要性が明らかとなった。

(4) 事業実施に当たった周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

地域密着のひたちなかコースでは、国際交流協会が実施している入門クラスの修了者やその知人等に口コミで広報を広げた。

広域に参加者を募ったCINGAコースでは、前述のとおり、国際交流協会や多文化共生関連機関にメールで広報を行った。「生活者としての外国人」に直接メールやチラシが届くことは期待できないため、窓口となる機関からの紹介をねらった。本事業の日本語教育は、実践結果を他地域の体制づくりに活かす目的の実践研究として行うために、参加条件等について十分理解される必要があった。そのため、スライド資料に教材と同じ7言語の翻訳(翻訳アプリ利用)をつけて動画化し、希望者がチラシからQRコードで見られるように準備した。また、コースの内容と申し込み手順はブログページにまとめ、閲覧者が選んだ言語に自動翻訳されるようにした。これらの説明資料により、学習者のみならず、仲介してくれた機関の担当者や家族にも、コース内容が正確に伝わったと考える。

成果の発信については、事業報告会の欄に記載のとおりである。当初より、地域を超えた成果普及を目的としていたため、事業報告会はオンラインで実施した。

(5) 改善点、今後の課題について

・オンラインの場合、細かいフォローには限界があることから、実施者は対面でサポートができる学習者の周囲の人や機関と連携することが必要である。参加者の募集時から、これらの機関と連携体制が構築できることが望ましい。

・コースは、発音や文字等を含めて、週2回×2時間、全46回と、生活者にとっては継続に努力が必要な設定であった。出席率は非常に高く、終了時アンケートでもっと長いコースを希望する人が30%ではあったものの、後半は生活上の多忙も併せ、参加者全体に疲れが見えた。2タームに分けて、間を空けて参加できるようにするなど、設計には検討の余地もある。

・収集したデータをもとに、より分析的なコース評価を行い、同様のコースを多くの地域で実施できるように成果普及と支援につなげたい。

・2つの教室の運営実態から、運営に必要なことも分析・考察するとよい。

(7) その他参考資料

CINGAコース参加者募集チラシ／ひたちなかコース参加者募集チラシ／事業報告会チラシ／事業報告会参加者アンケート結果